



サービスプロバイダー向けのダイナミックなクラウドストレージソリューション 拡張性、安全性、シンプル。

451リサーチの見解

企業はデータストレージのニーズに対応する際、幅広い課題に直面しますが、さらに悪いことに、データの急激な増加がこれらの課題の克服を一層困難にしています。限られた人的資源を補いながら、押し寄せてくる入力データを処理する企業を救うことができるのは、柔軟な消費モデルとマネージドサービスかもしれません。クラウドストレージは、クラウドネイティブアプリケーション向けとハイブリッド/マルチクラウドインフラストラクチャ向けの両方で重要なテクノロジーとして成長していますが、サービスプロバイダーは、基本的なデータ保存とストレージ性能にとどまらない高価値サービスを提供することが必要です。

当社の調査結果から、顧客は、データ管理とデータ保護問題の解決支援をサービスプロバイダーに求めることが予測されます。サービスプロバイダーはクラウドを使用して、複数のストレージサイロを統合し、クラウドを使用して移行を簡素化、場合によっては排除する顧客を支援する能力によって、差別化を図ることができます。これを効率的に実行するために、企業は自社が管理するデータに対するワークロード要件の理解を深める必要があります。例えば、アクティブなデータと非アクティブなデータを特定することにより、ワークロードの効率とコスト管理に非常に大きな影響を及ぼす可能性があります。アーカイブやセカンダリストレージは典型的に、高性能のNVMeフラッシュストレージに比べて、わずかなコストしかかからないためです。

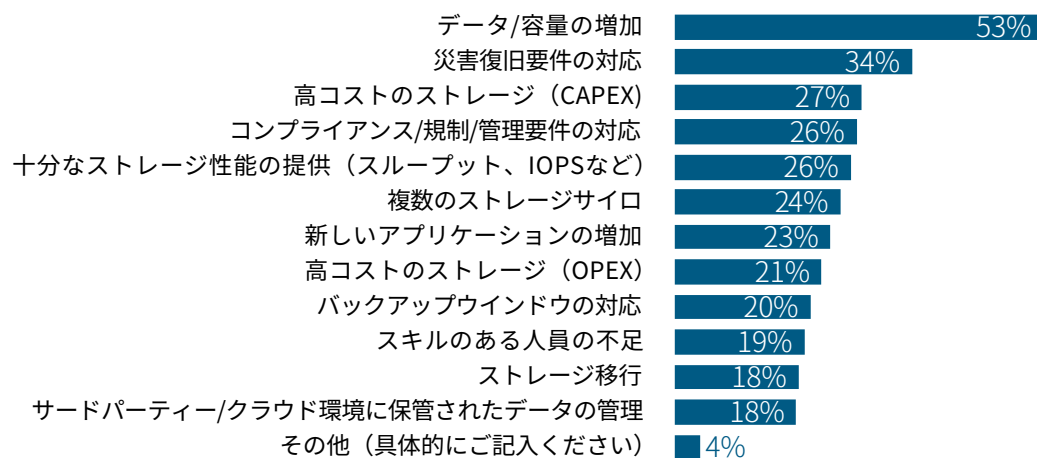
サービスプロバイダーは、自動化された統合バックアップや災害復旧サービスを提供することによって価値を提供することもできます。このようなサービスは、IT人員の管理責任を軽減することができ、本番環境のワークロードに集中できるようになるためです。本番環境の多くのアプリケーションは依然としてブロックまたはファイルレベルのストレージアクセスを要求し、これらのアプリケーションが、パブリッククラウドレポジトリでは一般的なオブジェクトストレージプロトコルをサポートするように書き換えられる可能性は低いと、複数のストレージプロトコル（ファイル、ブロック、オブジェクト）を使用してデータアクセスをシームレスに実現する柔軟性が重要になります。

ストレージの重要な課題

出典：451リサーチの「Voice of the Enterprise: Storage, Budgets and Outlook 2020」

質問：ストレージの観点から、御社にとって最も重要な課題は何ですか？（該当するものをすべて選択してください。）

調査対象：全回答者（n=451）



451リサーチは、技術革新と市場混乱に注目している大手情報技術調査顧問会社です。組織的な調査とデータ、助言と市場参入サービス、ライブイベントなど様々なサービスを組み合わせて、100人以上のアナリストとコンサルタントが世界中の1,000社を超えるクライアントに重要な知見を提供します。2000年に設立された451リサーチは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスの一部門です。



Research®
Now a Part of

Business
Impact Brief

S&P Global Market Intelligence

ストレージに関して企業の最重要課題はデータの増加であり、その問題は深刻化するばかりです。451リサーチの「Voice of the Enterprise: Budgets and Outlooks 2020」調査によると、2019年のデータ増加率は20%でしたが、2020年のデータ増加率は25%に到達することが予想されています。対照的に、オンプレミスストレージ予算の予想増加率は平均でわずか10%です。このように、企業が貴重なストレージ予算からより高い価値を搾り取る必要性があることは明らかです。特筆すべき点は、2020年のストレージ経費が前年と同じ〜減少と回答した回答者の59%にとっての予算削減の主な理由は、支出がオンプレミスからクラウドストレージサービスへの変化であったことです。現代の効率的なインフラストラクチャを稼働するには、おそらく、パブリッククラウドストレージサービスと同時に堅固なオンプレミスストレージリソースを使用することが必要になります。

ビジネスへの影響

クラウドストレージは、インフラストラクチャの購入に関してOPEXへの緩やかな転換、変化するビジネスニーズに対応する柔軟性の必要性など、複数の理由により成長しています。このような推移は容易ではなく、クラウドへの移行には学習曲線が存在します。企業にとっては、特に本番環境の運用を中断したくない場合、データの移動が課題であることに変わりありません。クラウドストレージのサービスは、ストレージ・アズ・ア・サービスとして提供されるか、サービスプロバイダーによって管理されるオンプレミスシステムとして提供されるかどうかにかかわらず、効率を高めるだけでなく、稼働停止や性能低下の可能性を回避するインテリジェンスを提供することが必要です。企業は、クラウドストレージに関する決定を下す際に、複数の要素を考慮する必要があります。

適切な性能を実現するための闘い。 IOPS、スループット、レイテンシーは、今後も多くの企業で重要な問題になります。オールフラッシュストレージが主流となっていますが、ディスクやハイブリッド型フラッシュアレイに比べてコストが高いという認識に変わりはなく、これらのシステムの性能をアプリケーションが高度に活用しない場合は、その出費が問われることになります。クラウドストレージサービスは、オンデマンドでプロビジョニングできるだけでなく、さらに重要な点として、必要がなくなれば解約してコストを削減できることから、オンプレミスのリソースに比べて大きな利点を持っています。

エンドツーエンドのデータ管理。 企業は複数のデータサイロの管理に加えて、サイロ間での運用の移行に苦戦しています。これは明らかに、多種多様なストレージシステムとサービスに柔軟に対応することができるデータ管理能力に対する強いニーズが存在することを示しています。

統合災害復旧と管理要件。 企業は、災害復旧のためにセカンダリデータセンターを運用する代替策として、クラウドベースの災害復旧・バックアップサービスに注意を向けています。クラウドは、サービスの弾力性により、災害復旧には魅力的なオプションです。このオプションによって、顧客は、例えば、現場の障害発生時だけでなく性能または容量のニーズがオンプレミスのリソースの容量を超える場合など、必要な場合にのみリソースを追加できます。

今後の展望

顧客は旧来の契約条件やベンダー固定化によって生じるリスクを低減すると同時に、自社のストレージ投資から、より高い価値を引き出す必要があります。データ保護/回復機能とストレージ管理は、企業が集中して改善すべき2つの重要な分野です。今後、顧客は、自社所有のデータセンター、コロケーションデータセンター、パブリッククラウドなど、ワークロードが存在する場所に関係なく、一貫した性能を実現できる柔軟なインフラストラクチャリソースを持つことが必要になります。ハイブリッドとマルチクラウドの場合、オンプレミスとクラウドプロバイダー間でのWANリンクを介した転送を必要とするデータの量が削減されるため、データを圧縮し、重複排除、する能力が重要になります。

ストレージベンダーの固定化は、ベンダーを変更できなくなるため、顧客にとって大きな問題でしたが、ストレージの仮想化など最新技術を利用することで、現在は、新しいベンダーへの変更時に、新しいプラットフォームへデータを簡単に移行できるようになっています。自社のインフラストラクチャとしてストレージリソースを購入するために、事業運営費 (OPEX) を選択しようとする企業が増加しています。OPEXモデルが企業にとって魅力的であるのは、オンデマンドで消費を拡大、縮小、または休眠させることが可能になり、デジタル変革に必要な柔軟性が提供されるためです。

zadara

2011年に、当社のストレージ業界の専門家チームは、企業がエンタープライズデータストレージシステムにリスクを負い過ぎているという問題を認識していました。もっと優れた方法があるはずだと確信していました。その結果誕生したのがZadaraです。

特許取得の仮想プライベートストレージアレイ (VPSA™) テクノロジーから、世界で初めての真のOPEXストレージ・アズ・ア・サービスの導入まで、Zadaraは、中小企業からフォーチュン100まで、あらゆる規模のあらゆる企業のお客様に、リスクゼロのデータストレージ管理ソリューションを提供しています。

<https://www.zadara.com/freetrial>から無償トライアルをぜひお試しください。